

だれでも幸せになれる教えです!!

ひかり

2024年

1月

221号



- ◇ 信仰は心のリハビリ、休まず続けよう
- ◇ 自分の意思をはっきり言おう
- ◇ 自己肯定感で自己主張

宗教法人 真生会

<http://www.shinseikai-world.or.jp>

利他行を実践しよう

『幸せへの近道、一日二つ人のため！』

真生会の教えとは！

仏さまの智慧とものの見方を身に付け、自分の運命を変え、在家の法華経教団です。宗旨宗派は問いません。どなたでも安心してお越し下さい。

◇慈悲の世界「真生楽園建設」

- ・ぬくもりと安心のある家庭と社会を作る
- ・思いやりと親切の実践

◇即身成仏「輝く自分作り」

- ・ありのままに輝く自分自身になる
- ・笑顔と明るい声かけの実践

◇幸福の五ヶ条

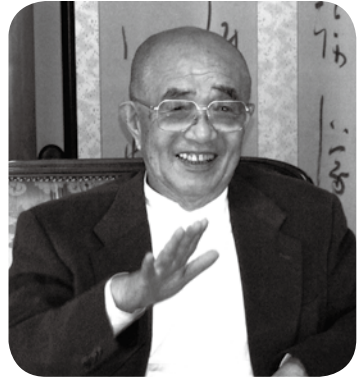
- 一、素直な心：（おかげさま）
- 二、誠の心：（まず人さま）
- 三、明るい心：（きつとよくなる）
- 四、尊ぶ心：（仏性を拝む）
- 五、信じる心：（皆、仏の子）

開祖さま十七回忌笑顔忌法要



令和6年2月25日（日）AM10：30 総本山真生寺
各教会代表者の参拝により厳かに執り行います。
信徒皆様には YouTube 真生寺ナムルで配信予定。





開祖さまのみ教え

開祖 たなか 田中 ひで 偉仁 ひと

《信仰の在り方》

智者、権力者といえども、大自然の守護なくして一日たりとも生きられるものではありません。

科学万能の社会となり、便利で至れり尽くせりの幸福の真っ只中に、交通事故や難病に悲しむ現実を見る時、何が欠けているのか、何がこうさせているのか。一言で言いますと、大自然に逆らい続けている心使いの間違いが不幸を招く原因であります。喜びを忘れ、報恩感謝の念が薄らぐ頃から不幸が襲ってくるのです。国家も国会議員も国益や党利党略を中心とする争いの心をなくさない限り平和な社会は築けません。争いは争いをもって治まらず、恩のみこれを鎮めるのです。これは一般家庭にも会社経営にも当てはまりません。仏を敬い、法を学び、良き師につく、篤く三宝を敬う心があってこそ、身に徳が付き、真の幸福になれるのであります。

(1982年、真実に生きる36号より)

ご真教法話

会長 田中 庸仁
たなか つねひと



◇信仰は心のリハビリ、休まず続けよう

新年明けましておめでとうございます。

今年の信仰目標は「**利他行を実践しよう。幸
福への近道、一日一つは人のため**」です。昨年
以上に情熱を燃やして世のため人のために精進
しましょう。特に人に教えることは最高
の利他行です。あらゆる出会いを通じて教える
伝え、お互いに幸せになりましょう。

さて、著者は昨年十一月にアキレス腱の手術をし、早期完全復帰を目指し週
四回りハビリに通院し、三十代の若い理学療法士の先生に治療してもらってい
ます。順調に回復しており、三ヶ月ぐらいで普通に歩け車の運転もできるよう
になり、六ヶ月ぐらいでスポーツができるようになると言われ、希望と目標を

もつて励んでいます。

「慌あわてなくてもいいですから、コツコツ続けましょう。少し良くなった頃に面倒くさくなってリハビリをさぼったり、やり方が分かったと思いつ分流でリハビリすると患部が固まったり再び傷めてしまうと一生まともに歩けなくなってしまうので、ちゃんと続けて下さいね。そうすれば田中さんの希望通り、またスポーツもできるようになりますから」と助言されました。

会話の中で、彼のお母さんは五島列島の潜伏せんぷくキリシタンの流れを汲む七十四歳の熱心なクリスチャンで毎日のように友達を乗せて、車で三十分ほどかかる教会のミサに出かけているそうです。道中が心配で、そんなに頻繁ひんぱんに行かなくてもいいのにと心配しているというのです。

そこで私は「先生は体のリハビリですが、宗教は心のリハビリです。体のリハビリと同じで、悩みや苦しみが少し良くなった頃に信仰から遠ざかると、せっかく素直で柔らかくなった心も知らぬうちに『我で固くなり』再び苦や悩みでつまづいてしまうのです。毎日のように休まずお参りされるあなたのお母さんは立派ですよ」というと彼は「僕はあまり熱心ではありませんが、そういうも

のですか」と素直に聞いてくれました。

信者さん以外の人と出会うせっかくの機会ですから、教えの考え方をさりげなくお伝えする好機と思い、楽しみながらリハビリに通っています。皆さんも色々な機会を通じて教えを伝える「利他行」に励んでください。

◇自分の意見をはっきり言おう

令和六年は「三碧木星」の年です。三碧の持つ意味は「震えるような感動」と「明るい声」「積極的な未来志向」が特徴です。

おとなしい人や引っ込み思案の人も、開祖さまの教え「きつとよくなる。何とかなる」と前向きに考え、今年は思い切って自分の方から明るい挨拶、声かけをしましょう。

法華経の修行に「下がる修行」がありますが、下がり過ぎて「自分はダメな人間だ」と「卑下^{ひげ}」したり「卑屈^{ひくく}」になって「自己否定」になってはいけません。今年はお自分の意見や考えを明るくはっきり言いましょ。但し、怒りに震えて発する言葉は危険です。「怒りは病氣・貧乏・災難のもと」になります。

◇自己肯定感で自己主張

あるご婦人が切羽詰せつまつままつてご相談に来られました。

年老いた両親を自宅で介護をしてみえます。最近、義母が転んでから調子が悪くなり、認知症も進んできました。医者から入院を勧められていましたが、義父と毎日のように来ている小姑こじゅうとだけが承知しており、お嫁さんに情報が共有されていなかったのです。お嫁さんがパートに出かけている間に入院され、その時いかなかったことに小姑から罵詈雑言ばりぞうごんを浴びせられ、家を出て行けとまで言われ、たまらず教会に相談に来られたのです。

「あなたは今日まで教えを聴いて理不りふ尽じんなことにもよく耐え、一生懸命親のお世話をしてくられました。今度、出て行けと言われたらはっきり言いなさい。『私は、長男の嫁としてこの家を守り、親を守る覚悟をして嫁いできているので、出て行きません』と、そして自分一人で受け止めきれないことは、悪口や愚痴ではなくご主人に打ち明けて相談することです」

後日、その後の報告に見え「先生、あれから主人にこれまでのことや自分の覚悟を話したら、『分かった自分一人で悩むことはない。これからは長男である自分が大事なことは矢面に立って取り仕切る』と言ってくれました。」

今まで小姑が来ると何か言われるのではないかとびくびくしていましたが、私も何か吹っ切れて自信と勇気が湧いてきました」と力強い決意でした。

世の中には筋道というものがあります。どんなに一生懸命親孝行をしても、正しい筋道を通してこそ徳が詰めるのです。我流の自己満足でやっていたら、徳を積むどころか罪を作り、親不孝になってしまいます。

【小姑の親孝行の仕方】

同居している跡取り夫婦に声をかけて親のお世話をする。勝手に来て挨拶もせずに帰らない。親しき仲にも礼儀ありで、お互いに感謝や気遣いの言葉を掛けることが円満にいく秘訣です。

【世話になる親の姿勢】

またお世話になる親も、正しい筋道を通してお世話になることが大切です。血のつながった子供の方が頼みややすく気が楽かもしれませんが、やはり同居する跡取り嫁を中心にお願いすることが円満にいく秘訣です。

親も心の中で感謝しているだけではなく、「ありがとうね！いつもよくしてくれて嬉しいよ」と伝えることでお嫁さんの苦労が報われるのです。

◇覚悟をもって看護する

やはり、年老いた両親を自宅介護しているお嫁さんからの相談です。

父は寝たきりの状態でかなり弱ってきて、医者から「一週間から二週間ぐらいが山です」と言われました。

「先生、父は認知症も進み、排尿用の管くだを勝手に外してしまったり、無意識のうちに大便で周囲を汚してしまったり、同室で生活している母もへとへとです。大便の始末は私がしていますが、いつそ病院に預けようかとも迷います。

ところがこの一日二日急に少し元気になり、「お寿司が食べたい」というのです。看護師は駄目だと言われるし、兄弟に相談したら反対だと言われます。でも父は『誰もお寿司を買って来てくれない。三貫だけでいいから食べたい』と懇願され、どうしたらいいのでしょうか」という相談です。

「自宅介護は大変ですが、今の状態で入院したら、もう戻ってこれませんよ。元気になったように見えますが、ろうそくが燃え尽きる前に。パーツと明るくなるのと同じで、安心はできませんよ。睡眠欲と食欲と性欲は人間の根本欲求です。医学的や常識では無茶と言われるかもしれませんが、余命いくばくのお父

さんが一瞬でも食欲が湧いて寿司が食べたいとおっしゃるなら用意してあげるといいと思いますよ。

そして、『仏さま、このお寿司を父が喜び、少しでもおいしく食べられますように』と拜んで食べさせてあげて下さい。お寿司を見ただけで満足されるかもしれないし、一口だけ食べて満足されるかもしれませぬよ。大小便のお世話もよくやって見えますが、あなた方若夫婦が経済的に困った時、何度も金銭的尻くりの応援をして下さったことへのご恩返しと思ってお返し頂ければ、思いが仏さまに通じてきつと困らないように守られると思いますよ。よくご夫婦で話し合ってください。最後は直接介護をしているあなた方夫婦の覚悟だと思えますよ。」と助言致しました。

法華経は幸せに生きるための智慧の教えです。常に師の添削を受けながら正しく実践していきましょう。



16

佛の慈悲

仏の顔は

何度でも

だれ一人

見捨てない

「仏の顔も三度まで」という諺は、どんなに温和で仏さまのような人でも、理不尽なことや無法なことを反省なく何度も繰り返すと最後には怒って見放されてしまうというたとえです。

しかし、お釈迦さまは怒りや憎しみを超越された方です。お釈迦さまの弟子でありながらお釈迦さまの命を何度も奪おうとした従弟の提婆達多を「善智識」悟りを開かせてくれた師として尊び、永い修行の末に仏になるであろうと授記されています。お釈迦さまの慈悲の心には限界はありません。何度失敗しても相手の仏性を拝み、救い切るまで見捨てられないのです。私達もそうありたいものです。

17

人生は前向き
 目も鼻も耳も
 みな
 前向きに
 付いている
 なか心は
 後ろ向きに
 なります

地球の生物の歴史は、強いものが生き残ったのではなく、過酷な環境の変化に柔軟に適応し、自らの体質や形態を変化させ前向きに進化した生物が生き残ったのです。

私たち人間の体は、目も鼻も耳も口も足もすべて前へ進むように前向きにできています。しかし、人は苦難に出会うと悲観したり失望して心が後退してしまうことがあります。あらゆることを前向きに受け止めることが出来る時にこそ、人は進化して力強く生き抜くことが出来るのです。法華経は「良きに悟って喜びを得る陽気の教え」です。毎日を明るく過ごしましょう。

今月の運勢（2月）

（2024年2月4日～3月4日）

一白水星

困難が重なる時だが、いかなる剣難にも、くじけずに最後まで初志を貫いて行けば、苦難に鍛えられ深みが増す。闘志を持って真正面から受け止めて誠実に行動すれば必ず切り抜けられる。

二黒土星

先頭を走るより、皆を受け止める包容力が大切。人を敬い相手を立てて行けば、理想の主人を得てうまくゆく。意見の合う同志と一緒に行けば最後は喜びを得ることが出来る。

三碧木星

誰しも突然の雷鳴に驚

くが、一心に神仏を祈る者は動揺しない。何が起きても自分を見失わずに泰然としていたら、最後には福が来る。

平素から心身を鍛えておくことが大切。

四緑木星

徹底して相手の気持ちを抑え、相手の腹の中に入り込めば小さな願いは通る。あくまでも謙虚にへりくだって信頼できる大人に従ってこそ、初めて良い結果がもたらされる。

五黄土星

五黄は腐敗土であり肥料でもある。すべてのものを腐らせるか肥料となつて育てるかは五

黄の決意次第です。愛

想がよくおしやれな五黄は運が強く。無愛想で不精な五黄は大凶。

六白金星

物事が始まり、願い事は大きいに叶う。動機と行いが純粹であること

と一貫性があることが最も大事である。力が充実しているから、天

七赤金星

の健やかなる動きを見習って進めばよい。何事にもこみ上げるような喜びがあれば願い事は通る。表面的な喜びや道を外れた喜びは時として毒となるので注意すること。喜びの収穫を得るには喜びの

種まきが必要です。

八白土星

動かざること山の如く大いなる停止の時。欲の心を止めることが最も大切な時です。無私

無欲になつて何が起きても外の世界に一々心を動かされないこと。

何事も心の持ち方次第でどのようにもなる。

九紫火星

何事も一人でやってはいけない。師匠に付き良き仲間がいれば吉となる。特に家族を大切にしてみんなで力を合

しあわせ眼鏡

人生は、負けても失敗
しても、それで終わら
ない。
必ず次がある。
次を目指している限
り、人は終わらない。
明るさがあれば大丈
夫、人生を思う存分楽
しもう!!

お気軽にご連絡ご相談下さい

- | | | |
|----------|------------|--|
| 【総本山真生寺】 | 〒 501-1105 | 岐阜市彦坂 178 番地
T E L 058 - 235 - 7304 |
| 【岐阜教会】 | 〒 500-8882 | 岐阜市西野町 3 - 19
T E L 058 - 262 - 9615 |
| 【大阪教会】 | 〒 532-0028 | 大阪市淀川区十三元今里 3-4-10
T E L 06 - 6308 - 5637 |
| 【名古屋教会】 | 〒 454-0808 | 名古屋市中川区九重町 3 - 10
T E L 052 - 351 - 3904 |

上記の教会にお申込み下さい。必要な冊数を毎月お送りします